



北京世界女性会議-女性NGOフォーラム
女性たちの平和パレード

**「性差別撤廃」
黙っていては進まなかった**

ジェンダーギャップ指数GCI世界一位を16年間維持しているアイスランドのドキュメンタリー映画「女性の休日」を見た。この映画は、国連が「国際女性年(※1)」と決めた1975年の10月24日、90%の女性が家事や仕事を一斉に放棄する、ストライキを行った記録である。

首都レイキャビックに集まった数十万の女性の大会唱、眩しいほどの輝いた顔、顔、顔。スクリーンの光景に私の体内も熱い血が流れ、一緒に歌いたくなった。この歴史的大イベントを企画した女性たちの会話が実に素敵なのだ。トップダウンではなくみんながメインアクターとして発言し行動する。楽しそうな女性の連帯が社会を変えたのである。

アイスランドは、女性大統領のもとに世界最年少の女性首相、3つの党の党首が全員女性。この背景には女性のストライキを契機に、性差別、ジェンダー格差を「構造の問題」として捉え、法律など制度変革を社会全体で取り組んできた運動があり、政治改革を政治家に任せるのではなく、女性が男性を巻き込みながら進めたのが成功要因だったと指摘されている。

これに対して日本では「構造的差別」に目をたっぷり固定的性別役割意識の是正など個人の意識「心がけ論」に終始し構造的差別の解消は進んでいない。第6次男女共同参画基本計画もアンコンシヤスバイアス(無意識の思い込み)などカタカナ語が使用され、問題が矮小化されている傾向が顕著である。

**暴力から対話、競争から共生の社会に向けて
フェミニズムが可能にしてきたこと、これから目指す世界**

我が国初の女性首相の誕生、だが概して女性には不評である。特にフェミニストと呼ばれる人々には。それを「女の敵は女」と揶揄する向きもある。この現象に、そもそもフェミニズムとは何なのか？ ウーマンリブやジェンダーフリーとどう違うの？ という疑問が改めてわいたのだ。今回は長年、女性解放運動に関わってきた船橋邦子さんに寄稿していただいた。今だからこそ知りたい「フェミニズム、イロハのイ」。わかった気でいたけど、意外に知らない「女性学」の基本について学んでいきたい。

実効性をもたせた行動綱領 (Platform for Action)

- キーワード
エンパワーメント、コミットメント、パートナーシップ
- ジェンダーの主流化
- 無償労働の可視化
- ジェンダー統計
- リプロダクティブ・ヘルス・ライツ
- 女性への暴力

北京行動綱領の骨子

フェミニズムの国際的ネットワークとバックラッシュ

日本の女性たちも1970年ウーマンリブから1975年に始まる国連を中心とした女性の人権確立運動、性差別撤廃の運動に呼応して運動を展開してきた。

私自身もフェミニズムアクティビストとして1980年代からNGO「アジアの女たちの会」として他のアジアの女性たちとネットワークをつくり、1992年には日本でアジア女性会議を開催し、「北京行動綱領」の策定に準備過程から関わった。

1995年北京での「世界女性会議」には世界各地から女性たちが集まり、政府間会議とNGOフォーラム合わせて5万人となった。日本からも自治体が派遣のために予算をとり、5000名が参加。各地にDV被害女性のための民間シェルターや女性の政治参画を進めるための運動も広がった。

また、ソ連解体後の国際的なりベラリズムの広がりから、国内でも自社さがけ政権が誕生し、村山政権では「戦後50年談話」での日本の加害の歴史に対する国家としての謝罪がなされた。ところが、国際的な性差別撤廃の流れを受けて男

女共同参画社会基本法やDV法、国内推進機構としての男女共同参画局の設置などが始まった矢先、1998年発足した日本会議(※2)を中心に全国的なバックラッシュ(歴史の振り戻し)が始まった。

世界的にも2001年ニューヨークの9・11テロ事件を経て新自由主義の浸透のなかで格差が拡大し、今や暴力の嵐が吹き荒れるトランプ政権下では、バックラッシュではなくフッシュバックと呼ばれる反ジェンダーや多様性の否定が戦略的、大々的に行われている。

女性首相が体现する「家父長制」その目指す先にあるものとは…

WAになって話をう！脱戦争・循環型社会etc.

Scribble Magazine
Monthly
ちゃぶ台
Low Round Table
Vol.41 2026.1

読み終わったら、リサイクルに。
その前に誰かに渡して「回し読み」

旅人家族、 第1回 台湾に暮らす ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 大草コロン

以前、「ソウル下町だより」というエッセイをこちらに連載させてもらっていたが、この度ありがたいことに台湾編を書かせていただけることになった。しかし、会う人にみんな聞かれるこの質問にまず答えなければならないだろう。

それはまさに「どうして台湾へ来たの？」である。日本人夫婦が韓国から、身寄りもない台湾の地方に移住したのにはもちろん理由がある。そして、正直それは「台湾に来た理由」よりも「韓国を出たい理由」のほうが強かった。

私たちは韓国も韓国人も大好きで、慣れ親しんだ韓国を出るのには当然葛藤があった。しかし、いくつかの理由があり、そのどれが強いというのでもなく、総合的な判断で決めた。まず、韓国の物価の高さである。「日本も物価が上がってる」と思われるかもしれないが、韓国の上がり方は日本の比ではない。食料品が百円、二百円という単位で上がっていく。特に、日常生活で必要な卵、パン、肉、魚、トイレットペーパーなどが高すぎて、買い物に行っても「あれも買えない、これも買えない」と気分が落ち込む。

プロフィール
世界30カ国を旅し、「旅するように暮らす」が信条。7年間の韓国生活に区切りをつけ、2024年台湾に夫婦と犬で移住。地方都市、宜蘭(イーラン)で中国語に苦戦しながら田舎暮らし満喫中。著書に『韓国で節約文化的な生活』(kindle)。



「そもそも
YOUはどうして
台湾へ？」

次に、外国人として暮らす上で避けては通れないビザの問題だ。詳細は割愛するが、ビザの取得条件がよくなる上に、貧乏人・年寄りを歓迎しない制度なので、いつビザが出なくなってもおかしくないという状況になってきた。私の夫は韓国の国家行事に元大統領に招待されたこともあるが、そんなことはビザ取得には何の関係もないのであった。

最後に、冬の寒さである。笑いたければ笑え、マイナス17度の世界で暮らす気持ちが日本にいてわかるのか？室内はオンドルで暖かいじゃないかとよく言われるが、光熱費もすさまじくかかるし、そもそもずっと室内で暮らせるわけがないのである。

他にもいくつかの理由があるが、きりがないのでこの辺でやめて、次に台湾を選んだ理由である。暖かい国、日本と韓国から近いことがまず条件だった。さらに、どうせ行くなら中国語が学べるところがいいと思った。私たちは日本語、英語、韓国語を話せるので、さらに中国語を身に付けたいことができることが広がる。

そして、私は元々漢字と中国語の響きが好きだったので、次に住むなら中国語圏だと思っていた。さらに、台湾は繁体字を使うので、簡体字より学びやすい。(そして美しい、と個人的に思っている)

そんなわけで、台湾がいいんじゃないかと考えた。ちなみに

編集後記

我が国初の女性首相の誕生。しかしそのことを喜ばないフェミニストが多いのはなぜ？ と思った時、そもそもフェミニズムの思想というのについてわかっていなかったことに気がついた。

ウーマンリブ、フェミニズム、ジェンダー…いろんな言葉で性差別について語られてきたけれど、バイアスがかりすぎて、多くの人がきちんと向き合うことができていなかったと思う。

もちろん私もその一人。フェミニストとは努力奮闘して男社会で闘っている女性たちのごとで、ヘタレで怠け者の自分はそなたに入らないと思っていた。

そこでフェミニズム特集を企画。今回、原稿をお願いする船橋邦子さんの本を読み、日本人からレクチャーを受け、目から鱗がポロポロ、遅ればせながらフェミニズム、すなわち性差別とは人類が共通に取り組むべき問題だとういう気がついた。

LGBTQの問題は傍に置いたとしても、要は「人口の約半分が差別されている構造を放置して、差別がなくなるわけがない！」ということ。2月号は、さらにそこから深掘りした「戦争とジェンダー」「家父長制」について、船橋邦子さんを紹介くださった白崎朝子さんとアサティーフ・アシリティー・エター・古沢智子さんの対談を予定しています。

さて、その高市早苗首相による「台湾有事は我が国の存立危機云々」の発言が、二気に日中関係を悪化させているなか、明日(12月15日)から台湾と111kmの与那国島へ行く。そこで取材活動をする本誌常連ライター・西村仁美さんの陣中見舞いを兼ねた観光旅行だが、現地の様子も見ておきたい。

もっともそこで暮らす人たちは「自分らに関係ないところで何を勝手に騒ぎ散らかしてるんだ！」と思っっているはずだ。

「Scribble Magazine ちゃぶ台」は、 50号(2026.10月号)でいったん終了します！

Scribble とは「落書き、下書き」のこと。コロナ禍の2022年夏、当時の閉塞感に満ちた形だけの正義と付度溢れた状況のなかで、「言いたいこと言いくる世の中」への恐怖に対して「何ができるか」と思い、「批判覚悟、自己満足上等」で「ちゃぶ台」を始めました。やってみると意外に楽しく、続けていくうちに「脱戦争」と「循環型社会」がテーマとして浮かび上がり、メインストリームのメディアが取り上げないさまざまなトピックを発信していきます。引き続きよろしく願います。

カンパの振込先 振込先 東京スター銀行 藤沢支店 普通預金7626172 フジミヤレイコ
振込先 連絡先 chabudaikakumei@gmail.com 090-1739-2364

#これまでの特集#
#戦争PTSD日本兵/#自然農家戦記/#国境の与那国島①/#ごみの資源化/#真山勇一氏対談/#草木循環Labo/#釣江の小さな沖縄資料館/#憲法宣言/#脱戦争シンガポ/#日本~韓国~北朝鮮の国境旅/#川越手榴弾塚/#動物福祉とエシカル消費/#映画上映会とミニシアター/#食の安全/#日中口述歴史・文化研究会/#STONE MUSIC(長谷川時夫氏)/#斎藤幸平氏と自然農/#バンデミック条約/#西アフリカ・ベナン共和国/#パレスチナ戦争/#与論島もずくそば/#靖国神社訪問記/#戦友会(遠藤美幸氏)/#里山管理と養鶏/#伊勢崎賢治氏講演/#沖縄旅/#WE21ジャパン/#小川町移住コミュニティ/#旧満洲訪問座談会/#兵庫県知事選問答/#国境の与那国島②/#介護保険崩壊/#311復興ウォッシング/#台湾画家 陳澄波/#植草一秀氏インタビュー/#釣江「水辺の楽校」/#チャーマー情勢/#フェミニズム



プロフィール 居場所がない人達に必要なメンガを目指す、ADHDとHSP持ち、魔女修行中。著書「めだかのこ」若草とヨソができるまで」共に青林工藝舎、Xインスターでも発信中。

ことで、たった30年前に過ぎない。同年に国連で採択された「女性の暴力撤廃宣言」では、女性への暴力は人権侵害として認識されるようになり、セクハラ、DV、性暴力等は、当事者間の個人的問題ではなく男女間のアンバランスな力関係、ジェンダーに基づく暴力（Gender Based Violence）だと定義された。

日本では「暴力亭主」以外に言語化すらされていなかった女性への暴力が可視化され、女性の支援団体、議員の連携で2001年DV法が制定され、警察、自治体、NPOがつながって取り組み始めた。その結果DVに関する法整備は、最も前進した成功事例といえる。

これらのきっかけは1991年に元日本軍「慰安婦」だった韓国の金学順さんのカムアウトだった。その行為に勇気を得た当事者の女性たちが世界各地で声をあげ、それに共感したグローバルなフェミニスト運動の広がりがあったからである。

暴力の嵐が吹き荒れるなかで、フェミニズムが希望の光に

「民主主義や国民を守るための安全保障」というまやかしの元に、国家間で軍勢力を競い合うという愚かな行為が繰り返されてきているのが「戦争のシステム」だ。そして、戦争と差別は表裏一体であり、構造の根本に「性差別」があると私はずっと主張してきた。

力の論理、競争原理ばかりが強調されるなかで、トランプ大統領のようなむき出しの男性優位主義、過剰な力の行使による支配を目にし、これらは家父長制の「最期のおがき」なのでは、と私はひそかにその終焉を期待している。

2019年に始まったコロナパンデミックが私たちにくれたメッセージは「いのちの大切さ」だったのではないかと。生命ある者すべてが主人公であり、「コミュニティ」のなかで対等に人とのつな

市民革命と近代社会の主役は特権階級の白人男性のみ

本来、普遍的である「人権」「フランス革命の『自由平等博愛』はエリートの異性愛主義トランスでないシス・障がいのない白人男性のものでしかなかった。

その白人男性たちがつくりあげた帝国主義による植民地支配は、先住民から土地、言語、文化を奪い、自然を征服し、手段を選ばず結果を求めた。こうした近代市民社会から女性が排除されて来たことを明らかにしたのは第二波フェミニズム運動であり、そこから生まれた「女性学」である。

「女性学」はまた、「産む性」である女性に「母性は自然に備わっている」という「母性神話」、「3歳までは母親の手で育児すべき」という「3歳児神話」など近代家父長制が女性を支配する

対している。

彼女とその支持者たちの主張とは「強いことはいいことだ」とする家父長制の温存であり、「強い国づくり」のための政策である。防衛費は過去最大の11兆円を補正予算で計上し、三菱重工をはじめとする軍事産業の強化でGDPを増やし、台湾有事発言で中国との対立は深まるなか、国民の不安は増大するばかりだ。

一方で、私が関わっている地域の民間シエラターには、夫の暴力から逃げてくる女性たちがいる。特に最近はずいぶん山の幼児同伴の母親が急増しているが、多産は男性が避妊に協力しない結果であり、「種の性暴力」である。

暴力の99%は強者から弱者への権力の濫用であり、こうした私的領域の暴力は家父長制の特色である。5人の子とも母親と祖母が暮らすケースでは、祖母もDVの被害者だった。前面で振るわれる暴力を覚えた子どもたちは、自身もまたそれを行って行く。これもまた現代日本の実相である。



同会場にて、フランスの核実験に対して抗議スタンディングする船橋さん(右)

ために作った、さまざまな言説に科学的根拠がないことをあぶりだした。

そうした言説を作った一人が、実はフランスの近代啓蒙思想家ルソーで、著書「エミール」で書いた「男女は人間として平等だが生まれつき特性があり、それにふさわしい教育が必要である」という「性別特性論」は、現在もしばしばフェミニズム攻撃に登場する。

また、第二波フェミニズム運動の有名なスローガン「個人的なことは政治的なこと」は、「暴力や貧困はあなたのせいではなく家父長制の構造が問題である」ことを明らかにした。こうした「女性学」から、男性自身が「男らしさ」を規範とした生き方や家父長制を問う「男性学」も誕生した。

さらに社会の分析概念としての「ジェンダー」の発見も大きい。「ジェンダー」とは「社会的文化的性差性別」であり、それが「両性間のアンバランスな力関係をつくる」としている。

「ジェンダー」という用語が国際文書に明記さ

れるようになったのは1990年代になってからで、1979年に採択された「女性差別撤廃条約」には「ジェンダー」という用語はない。95年の「北京行動綱領」には「性差別を撤廃するためにはジェンダーに敏感な視点」や「ジェンダーに対して責任ある応答をする視点」の重要性が明記されている。

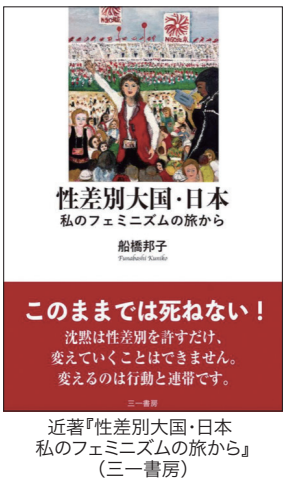
このような動きを受けて2006年度からジェンダーギャップ指数（G-GI）の世界ランキングが公表されたが、日本は周知のように2025年度、146か国中、118位と極めて低い。初の女性首相誕生や女性議員の増加で2026年度はランクが上がるだろうが、前述したような意味で、私はG-GI自体が差別構造を正確に反映しているとは思えないと思う。

「フェミニズム」とは、家父長制とジェンダー規範のもとでの抑圧支配に気づいた女性たちの解放運動であるとともに性差別構造の変革をめざす運動である。

1979年に国連が採択し、85年に日本政府が批准した「女性差別撤廃条約」さらには国連第4回女性会議（北京会議で採択された「北京行動綱領」には「ジェンダー主流化」すべての政策に性差別撤廃の視点を入れること」が環境人口開発平和構築の鍵と明記されている。

それらの背景には、国境を超えた「フェミニストたち」による下からのグローバル化といえる運動があった。それは近代の国民国家を超えた脱国家の運動であり、女性たちは「地球市民」として、国家の安全保障ではなく生存権が保障される「人間の安全保障」を求めた。さらにそのためには貧困からの解放、女性の人権の確立こそが平等と平和には不可欠であることを訴えた。

「女性の権利は人権である」と国際文書に明記されたのは1993年のウィーン「人権会議」の



がりを保ち、それがキルトのように織りなされていく社会こそ大切なのだと教えてくれた。

「いのちを守る」ためのエッセンシャルワークやケア労働を主に担っているのは女性である。これらの労働を中心に据え、障がいがあっても誰もが自立した生活が可能な地域を形成すること。そのためには、斎藤幸平さん（※3）のいう「誰のものでもない社会的に共有されるべき富（リコモン）」である社会資源をいかに地域で作りに出すかという議論が必要ではないかと。

それには支援、被支援は固定した力関係ではなく、相互的で対等であるというフェミニズムの視点を活かし、杉並区長の岸本聡子さんの提唱する地域主権主義（ミニシパリズム）に立って「コミュニティ」を形成していくことに希望を抱いている。

弱くても活躍していなくても、命の重さは同じ。あなたは世界で唯一一人のかけがえのない存在であるとして誰もが大切にされる社会。そんなオルタナティブな価値と文化の創造をめざすフェミニズムに、この危機を乗り越える可能性を見出す人が増えていくのを願ってやまない。

〈文字真／船橋邦子〉

プロフィール フェミニズム政治運動家、女性学者、大阪女科大学女性学研究所センター教授、和光大学教授を経て、現在は北京での「世界女性会議」コーディネーター、ネットワーク代表、NOアジア女性資料センター理事など。

※1） 国連が女性の地位向上を目指して設けた国際年であり、同年7月、メキシコシティにおいて第1回世界女性会議が開かれた。女性の地位向上のための「世界行動計画」が採択された

※2） 日本最大の保守主義・ナショナリスト団体。「美しい日本の憲法をつくる国民の会」等の関連団体がある
※3） 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部准教授。専門は経済思想、社会思想（マルクス主義研究）。著書『人新世の「資本論」』（集英社）ほか



12月22日以降、太陽は山羊座に移りました。神々がナイル川で宴会が開いた時、怪物デュボンが現れました。牧羊パーンは、下半身だけ魚になって川に飛び込みました。あまりに慌ててからです。その姿がユーモラスなので天に上げられたのが山羊座。山羊座の人たちは打たれ強く成功への執着が強いと言われるが、パーンのような明るさにも恵まれ、人に愛されます。

♈ 牡羊座
3月21日～4月19日生まれ
新しい年の始まりは物足りなくて自分何かをしようかと思うほど静か。けれども水面下で「新しいこと」が始まっています

♉ 牡牛座
4月20日～5月20日生まれ
年末年始の慌ただしさから少し離れたら「ぜい」今年の目標を立ててみて。挫折していたことも今年は達成できそう

♊ 双子座
5月21日～6月20日生まれ
際立ったことが好きな双子座にとってはバランス感覚が求められる機会が多そう。そのほうが目立つし、やりがいもある

♋ 蟹座
6月21日～7月22日生まれ
「何か変だぞ」と思うことには逃げるよりも飛び込んでみて。思いがけない体験とわらわら長期的な幸運がついてくるかも

♌ 獅子座
7月23日～8月22日生まれ
特に嫌なことは起こりませんが、こ機嫌斜め。イライラして不良腐れたり、怒りを爆発させても何の解決にもなりません

♍ 乙女座
8月23日～9月22日生まれ
小さなひらめきをききんと書き残しておく、後から大きな気づきや学びにつながる仕事、の面でチャンスに恵まれま

♎ 天秤座
9月23日～10月22日生まれ
自分のやるべきことに集中したいのに、なぜか他のことが気になるなら、手を止めてでも気になることを調べてみては

♏ 蠍座
10月23日～11月21日生まれ
ゆっくり過ごせる間に、とにかくゆっくり休みましよう。旧年中気がつかないうちに溜まっていた疲れを癒すタイミング

♐ 射手座
11月22日～12月21日生まれ
年を越しても「何かしらやり残したことがあり、残務に追われている感じ。新年に慣れるにつれて身辺も落ち着くでしょう

♑ 山羊座
12月22日～1月19日生まれ
何かにせつめられるような焦りとともに年を越す感じですが、それは年だけでなくあなた自身が生まれ変わるようなイメージ

♒ 水瓶座
1月20日～2月18日生まれ
後半から水瓶座の誕生日シーズンがスタート、それが近づくに従って華やかなムードに包まれます。人からの注目も忙しさも

♓ 魚座
2月19日～3月20日生まれ
新鮮な気持ちで新しい年を迎えられそうです。心のなかで静かに澄んでくるので、本当に自分の思いが見えてくるかも

個人鑑定承ります。
お申し込みは編集部まで